

平成20年度 企業内家庭教育学習講座（フォーラム）

積水樹脂(株)滋賀工場

「みんなで子育て 心育て」



期日 平成20年6月9日（月）
時間 午後1時30分～2時40分
会場 竜王町大字鏡731-1
積水樹脂(株)滋賀工場
カンファレンスホール
滋賀県家庭教育協力企業
協定制度締結企業

対象 社員30名
講師 今関信子氏（児童文学作家）

イルカの親子が危ない！
みんなの願いをひとつにして
幼い命を救おう。



司会進行：生涯学習課

親や大人は、子どもの成長に合わせてどのように接することが大切なのでしょうか。

子どもと向き合い、子どもの願いや思いを感じる心を持ち、子どもにとって安全地帯のような役割を果たすことが大事。ご自身の経験談などをまじえながら、明るく、楽しく、お話ししていただきました。



子どもとともに
親も感動する心を

子どもたちに…
絵本のすばらしさを

「2頭のイルカの親子の話」より（話題の一例）

ロシアタンカー「ナホトカ号」の事故で、重油が日本海に流れ出し、はるか遠くの越前松島水族館に重油が迫る。非常に危険な状況を察知した水族館側は、飼育中のイルカを別の水族館に移すことを考案。神戸の須磨海浜水族館から引き取りの申し出があるが、しかしながら、一組の親子のイルカだけは乳離れができず、2頭同時の移送が必要であることがわかる。環境が変わることで、子どものイルカの生存率70～80%、だが、幼いイルカの命を救うため搬送を決断。

ところが、2頭を同時に搬送することは非常に困難な作業…水族館側は頭を悩ます。

しかしながら、ニュースで聞きつけたボランティアが全国から集まり、真冬のプールで互いに手を取り合い水に入り、人の輪をつくりながら、その輪を徐々に縮めていくことによって、2頭同時にクレーンに乗せることに成功。

須磨海浜水族館への引渡後、1週間目に「イルカの子どもがえさを食べた」との朗報が入る。

- ・多くの人の願いが、イルカの親子の命を救う。
- ・幼い命は、親（大人）が体を張って守らねばならないときがある。
- ・その時、幼い命、子どもを見守るまなざし、子どもを包んでいる空気が子どもを育てていく。